海辺の昆虫観察会

2024.08.04 実施

開会行事の様子

準絶滅危惧のヤマトマダラバッタ

海岸に漂着した流木

ハラビロカマキリの卵

講師の角田正明さん

チョウセンカマキリの卵

トノサマバッタ

講師からプレゼントされたクワガタを親子で飼育箱へ

講師の話を熱心に聞く受講生

8月４日（日）つのしま自然館（以下、自然館）では、昨年に引き続き、やまぐち昆虫楽会長で昆虫研究家の角田正明さん（山口市在住）を講師に、12 家族、総勢 45 名のご参加をいただき、角島こども探検隊「海辺の昆虫観察会」を実施しました。

開会行事後、まず、自然館建物周辺の観察から始まりました。自然館の壁には、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、オオカマキリの卵があり、よく見ると卵の形が全然違いました。オオカマキリは、本来、林縁に住む日本最大のカマキリです。ハラビロカマキリは森林内に多いカマキリです。チョウセンカマキリは、河川敷（平野部）に住むカマキリです。いろいろな人が島内に入り込むことにより、車などにくっついてきたのではないかということです。また、昆虫は、顔の形で餌が決まるそうです。カマキリなどの逆三角は肉食。バッタなどの三角や四角は草食。コオロギなどの丸は雑食です。途中休憩後、イソップ童話の「アリとキリギリス」の話を聞きました。この話は、もともと「アリとセミ」だったそうです。イソップ童話は、動物や植物を擬人化して教訓や風刺を伝えようというものですが、セミは、ヨーロッパでは種類も少なく、小型で迫力がないこともあって知名度が低く知らない人が多かったので、セミがキリギリスやコオロギなどの別の昆虫に変わったのだそうです。砂浜に出ると、山口県レッドリスト 2018 準絶滅危惧のヤマトマダラバッタがいました。このバッタが生息している海岸は、自然度が豊かな証拠だそうです。約１時間の観察が終わり、自然館に戻りました。

休憩後、講師から「クワガタ博士になろう」と題し、クワガタムシの特徴から、産卵の秘密、飛来する木や場所、上手な飼い方などの話がありました。その後、クワガタのオスとメスのプレゼントがあり、各家庭に分かれ、持参した飼育ケースに新聞紙で仕切りを作って、持ち帰る準備をしました。最後に、講師から「家族の一員としてかわいがってあげてください。名前もつけてくださいね。」と話がありました。講師の昆虫愛が受講者にしっかり届いた、なかなか充実した観察会となりました。今回の観察会の様子は、８月 14 日（水）～10 月 18 日（月）まで、写真展として自然館内に展示しています。興味のある方は、どうぞ、足をお運びください。

なお、次回は９月 28 日（土）に、「考えてみよう！下関から流れ出した漂流物」を予定しています。